

# 埋文やまがた



2012年1月1日  
第48号



高掬南遺跡 県総合交通安全センター (天童市)



小田島城跡 (東根市)



沼袋遺跡 (東根市)



城南一丁目遺跡 山形駅西口 (山形市)



ふるさと考古学講座(2)「バスで遺跡を見に行こう！」

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

YAMAGATA PREFECTURAL CENTER FOR ARCHAEOLOGICAL RESEARCH

〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL 023-672-5301(代) FAX 023-672-5586

ホームページ：<http://www.yamagatamaibun.or.jp>

メールアドレス：[yac@yamagatamaibun.or.jp](mailto:yac@yamagatamaibun.or.jp)

平成23年度

# 文化財普及啓発事業

今年度当センターでは、文化財普及啓発事業の一環として、「発掘調査説明会」、「出前授業」、「外部展示」、「職場体験」、「センター見学・遺跡見学」、「体験学習」、「山形県埋蔵文化財センター参観デー—やまがた埋文祭り2011—」、「発掘調査速報会」を実施しました。(平成23年12月現在)

## 発掘調査説明会

	市町村	遺跡名	開催日	遺跡種別
1	村山市	森の原遺跡	9月25日	集落跡
2	東根市	八反遺跡	10月15日	集落跡
3	村山市	清水遺跡(1地区)	10月15日	集落跡
4	村山市	清水遺跡(2・3地区)	11月3日	集落跡
5	東根市	沼袋遺跡	11月5日	集落跡
6	高畠町	押出遺跡	11月12日	集落跡

## 出前授業

地区	実施校	期日	対象・内容	
庄内	1 鶴岡市立朝陽第三小学校	4月26日	6年社会	
	2 鶴岡市立榎引東小学校	4月26日	6年社会	
	3 鶴岡市立西郷小学校	4月28日	5・6年社会	
最上	4 酒田市立田沢小学校	5月10日	6年社会	
	5 舟形町立長沢小学校	4月20日	5・6年社会	
	6 新庄市立升形小学校	4月25日	6年社会	
	7 新庄市立新庄中学校	11月8日	1年社会	
	村山	8 山形市立東小学校	4月21日	6年社会
		9 大江町立本郷西小学校	4月27日	5・6年社会
		10 東根市立長瀬小学校	5月2日	6年社会
11 大江町立本郷東小学校		5月6日	6年社会	
12 山形市立鈴川小学校		5月9日	6年社会	
13 尾花沢市立尾花沢小学校		5月11日	6年社会	
14 朝日町立大谷小学校		5月12日	6年社会	
15 河北町立谷地西部小学校		5月13日	6年社会	
16 上市市立上山南小学校		5月16日	6年社会	
17 天童市立津山小学校		5月18日	6年社会	
置賜	18 山形市立桜田小学校	5月19日	6年社会	
	19 東根市立第二中学校	6月3日	1年社会	
	20 大江町立左沢小学校	6月8日	6年社会	
	21 山形市立東沢小学校	6月16日	6年社会	
	22 高畠町立高畠小学校	4月12日	6年社会	
	23 小国町立小国小学校	4月18日	6年社会	
	24 飯豊町立第二小学校	5月17日	6年社会	
	25 米沢市立塩井小学校	5月24日	6年社会	
	26 米沢市立六郷小学校	5月26日	5・6年社会	
	27 米沢市立松川小学校	6月1日	6年社会	

## センター見学・遺跡見学

	団体名	期日
1	山形県立米沢女子短期大学	5月27日
2	最上義光歴史館ボランティア	6月6日
3	山形県立山形盲学校	6月8日
4	村山市立袖崎小学校 6年生	6月15日
5	村山市立西郷小学校 6年生	9月13日
6	鶴岡市各地区文化財愛護団体	9月13日
7	山形県立山形聾学校社会科・理科・生活部会	11月22日

## 外部展示

<b>うきたむ風土記の丘考古資料館</b> 「米づくりが始まったところ —南陽市百川田遺跡と酒田市生石2遺跡—」 開期：4月16日～9月25日 入場者：7,303人
<b>村山総合支庁(玄関口ビー)</b> 「学び舎の下に眠る遺跡 —山形西高敷地内遺跡—」 開期：7月4日～7月20日 入場者：55人
<b>鶴岡市立図書館(2階展示コーナー)</b> 「足元には文化財 —発掘された庄内の城あと—」 開期：7月13日～9月4日 入場者：68人
<b>山形空港(2階多目的ルーム)</b> 「山形のうつわ—器で見る山形の歴史—」 開期：9月6日～9月20日 入場者：71人
<b>庄内空港(3階多目的展示ルーム)</b> 「墨—書き遺された庄内の歴史—」 開期：11月21日～12月4日 入場者：25人

※2012年1月中旬に東紅苑(東根市)で展示予定

## 職場体験

	団体名	期間
1	山形県立上山高等養護学校	10日間
2	上市市内中学校	3日間
3	山形県立米沢女子短期大学	10日間
4	山形市立第七中学校	1日間
5	山形県立村山特別支援学校	3日間

## 体験学習

	団体名	期日
1	山形県立山形聾学校 6年生	5月17日
2	寒河江市教育委員会少年少女郷土史講座	8月2日
3	中山町教育委員会 歴史体験教室	8月10日
4	山形市立南沼原小学校 5年生	10月18日

## 講座

	講座名	期日
1	遺跡を掘ってみよう!	7月30日
2	ピーちゃんと昔の食器を見てみよう	7月25日～8月25日
3	バスで遺跡を見に行こう!	10月29日

※2012年2月18日に「昔の火起こしを探ろう!」を実施予定

# 山形県埋蔵文化財センター参観デー

## やまがた埋文祭り 2011

山形県埋蔵文化財センターでは、センターの仕事や考古学の面白さを広く県民の皆様にご覧いただきたいという思いから、「山形県埋蔵文化財センター参観デー やまがた埋文祭り2011」を10月2日（日）に開催しました。当日は曇り空の寒さも吹き飛ばすような、620名の多くのお客様にご来場いただきました。本当にありがとうございました。



埋文祭りでは一番人気の「まがたま作り」です。  
みんな一生懸命、削っています。  
ピカピカに磨いたら完成です！



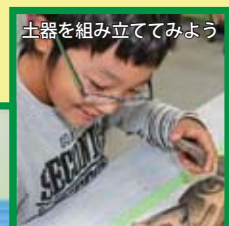
クイズスタンプラリーは正解するとビーちゃんのス  
タンプがもらえます。  
全部のスタンプを集めると素敵な景品と交換できます。



本物の土器と一緒に記念撮影ができます。  
縄文時代風の衣装やお姫様のような衣装を着て、  
ポーズを決めたらみんな笑顔になります。



土器の模様を写し取るう



土器を組み立ててみよう



絵をなぞってみよう



発掘してみよう



小さな文字を書いてみよう



石器づくり



弓矢体験

他にもいろいろな体験や展示がありました。



特別収蔵室(展示)



保存科学

# 平成23年度発掘調査速報会

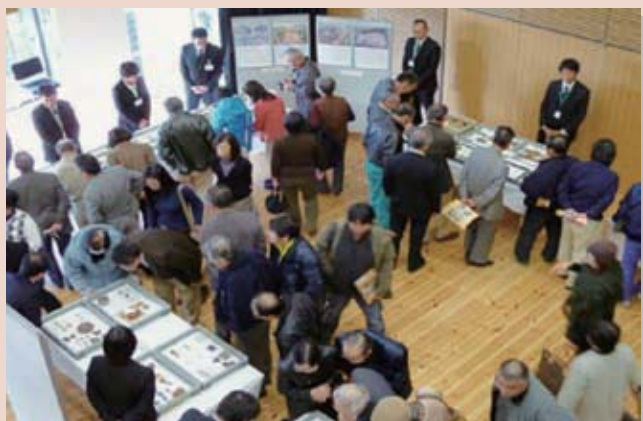
12月11日(日)に村山市のしょうよう甑葉プラザで、今年度山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を行った遺跡のうち5遺跡の調査成果の速報会を行いました。約200名の方にご来場いただき、盛況の内に会を終えることができました。本当にありがとうございました。



山形県埋蔵文化財センターの柏倉専務理事から、お客様にあいさつがありました。



多くの熱心な考古学ファンが参加し、会場は熱気に包まれていました。



各遺跡の出土品展示コーナーです。出土品を取り囲むように、熱心に説明を聞いています。



山形城三の丸跡の展示コーナーでは「堀跡の範囲がわかった！」という感想も聞かれました。

## 考古学クイズ

～山形の遺跡編～

これまで、山形県埋蔵文化財センターでは県内にある遺跡について、数多くの調査を行ってきました。このコーナーで、少しでも県内の遺跡や文化財、考古学に興味を持って頂ければ幸いです。

Q. 平成23年現在、山形県(35市町村)には遺跡がいくつあるでしょう？

- ①約150か所    ②約3000か所    ③約5000か所

答えは次号(第49号)の「埋文やまがた」で発表します！

遺跡(埋蔵文化財)とは「過去の人間活動の痕跡」で、一般的には地下に埋蔵されているもののことです。集落跡や古墳、貝塚、城館など様々な種類があります。

遺跡の情報は、各種調査で得られた最新のデータに基づき作成されます。なお、県や市町村教育委員会が実施する調査、または工事中の遺物出土などによっても、新たに発見されたり、その範囲が変更となることがあります。

# 平成23年度 発掘調査トピックス

## 最上川沿岸の官衙関連遺跡

村山市 清水遺跡3地区

清水遺跡は、村山市のほぼ中央に位置し、最上川右岸の丘陵地に立地する大きな遺跡です。範囲が広いため、23年度は1地区から4地区までの4つの地域に分けて調査を実施しました。その中で、3地区は市道清水北線の北側に所在し、東側を県道村山大石田線が走ります。

調査では、縄文時代と奈良・平安時代の生活の跡がみつかりました。縄文時代はおとし穴が2基と石器の集中土坑があり、奈良・平安時代は、掘立柱建物跡17棟、たてあな 竪穴住居跡7棟、他に、みぞ 溝跡、井戸跡、どこう 土坑などが確認されました。掘立柱建物跡は、調査区中央の西側に重複を含め9棟が集中しています。この集中区域の建物跡は、柱穴が大きいことが特徴です。中には1mを超える柱穴をもつ建物もあります。竪穴住居跡の規模は、約3～4m四方の大きさで、カマドが付け変えられた例も見られました。

出土遺物は、住居跡や土坑から土師器や須恵器の蓋、つき 坏、高台付坏、かめ 甕などが出土しています。井戸跡の底からは、漆器の椀、当時としては大変貴重な磁器の破片が出土しました。

大半の遺構が調査区内の区画溝に囲まれています。建物の大半が同じように南北を向いていることから、官衙に関する遺跡の可能性がうかがわれます。

(氏家信行)



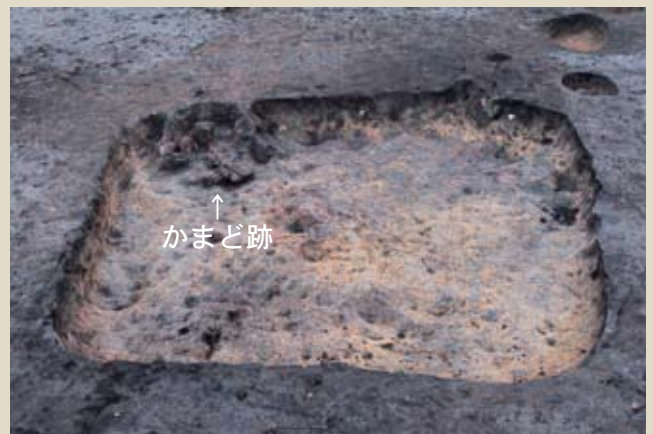
調査区中央右側付近に掘立柱建物群があり、南北に溝が配置されていることがわかります。



これらの掘立柱建物群は、南北に向かって配置されています。何回か建て直しされているようです。



大量に遺物が出土した土坑が数基確認されています。



1辺が約3m四方、深さは約20cmの竪穴住居跡です。

八反遺跡は最上川右岸の自然堤防上に位置しています。遺跡南側には古い川の跡があり、川跡を挟んで南側には沼袋遺跡が位置しています。地元の方の話によると、遺跡の周辺には8つの壇があったとされ、「八反」の地名の由来となっています。

調査の結果、火葬遺構や集石遺構など葬送に関連する遺構が見つかりました。

火葬遺構は、幅40～60cm、長さ100～120cm程の長方形で、長辺の両側に溝が直交します。壁が火を受け赤く焼けており、底には炭が堆積していました。炭の上から火葬された人骨が出土しています。

集石遺構は調査区の北東部で多く見つかっています。土坑や溝など様々な形の遺構に数センチ大の石が集められています。今回の調査によって、八反遺跡は亡くなった人を火葬し、埋葬した葬送の場であったことがわかりました。時代は出土した遺物等から中世後半頃と考えられます。

遺跡の南側にある居館の長瀬本楯を中心とし、その北側に屋敷地（沼袋遺跡）と墓地（八反遺跡）が広がる最上川右岸の中世の景観が見えてきました。

(高桑 登)



調査区を上空から撮影した様子です。写真奥には現在の長瀬集落が見えます。



方形にめぐる集石遺構の一部が見つかりました。墓地の中心的な施設の可能性があります。



火葬遺構には、大形の骨がバラバラになって出土するもの(上)や、中央部にまとまっているもの(下)などがありました。



中央に白く見えるのが人骨です。北側(写真右下)に頭骨、南側に足の骨がまとまっています。

# 挑戦　そしてその先へ

専務理事 柏倉俊夫

新年明けましておめでとうございます。皆さんにとって実り多い良き1年でありますことをお祈り申し上げます。

さて、昨年発生した東日本大震災により被災された方々には、未だ心の痛みが癒されないまま、新しい年をお迎えになったのだらうと思います。不帰の人を悼み、忌わしい記憶にさいなまれながら、被災地で生きる人たちを思うとき、改めて心から深くお見舞い申し上げます。

あの未曾有の大災害の中で、私の心に光と感動を与えてくれたものがありました。それは、被災者が余震の恐怖に怯えながらも整然と行列を作り食糧の配給を受けたこと、全国の若者がこぞって大震災の復旧活動にボランティアとして参加したこと、行方不明の家族を抱えたまま救助活動に加わった被災者が多く見受けられたことなどです。私利私欲に走って他を省みない昨今、本来日本人が大切にしていた品性と心根の美しさがあの場面の多くで見受けられ、そのことが報道を通じ、世界の人々に日本人の強さや優しさが伝わったことも嬉しく思いました。

また、このように、ある日突然、理不尽にも奪われてしまうささやかで平凡な日常生活が、いかに「しあわせ」なのかという事に気付かせてくれたのも事実でした。被災者の語る体験談をお聞きするたびに思うことは、日々の生活に追われている多くの人々にとって、「思いもよらない日」になる

までは、一つ一つの普段の出来事が、気にも留めず何気なく1日3食の食事を摂ることのように誰もが不用意なものと改めて感じたものです。

私にとってこの辛く悲しい出来事は、一瞬ではあるが居ずまいを正すような気分と共に、生命の重さと尊さを再認識し、一日一日をより丁寧に生きていくという「心の杖」にすることが鮮明に自覚されたことでありました。

そんな常日頃の生活において特に気にも留めない人間の「生」について、ある著名な医学研究者は「人生は一度きり、限りあるもの、人は皆毎日が老化との闘いなのだから、人生の妙味を感じながらじっとしていなくて楽しく体を動かすのが得策」という言葉を思い出します。

そのことに多少触発されたせいでもないのですが、気持ちを奮い立たせて昨年度に引き続き、村山市から東根市間にある東北中央自動車道整備予定地内の発掘現場を、山歩きの自称プロ斉藤敏行整理課長と、北は「森の原遺跡」を起点に南の「沼袋遺跡」までの7遺跡、約14.2kmを各遺跡の状況把握に努めながら約5時間30分に渡り踏査を行いました。

踏査しながら頭をよぎったのは、20年ほど前にこの東北中央自動車道建設の採択に向けての仕事に3年にわたり従事したことである。福島県相馬市から秋田県横手市までの全区間中、未だ約40%の整備率である

が、地元住民の方々をはじめ関係する多くの人々の熱い思いが、一日も早く実り叶えられることを望まずにはられない。

また今回の踏査は、日常の気ぜわしさに紛れてしまい、当センターが直面する「法人制度改革」に伴う将来にわたる大きな課題や「現施設からの移転」と言った喫緊の課題を見つめ直した意義ある時間ともなった。

法人制度改革については、役員会の議決を経て平成24年度からの公益法人の道を選択し、承認を得るため今年度当初から、相当の時間をかけての関係機関や会計専門事務所との個別相談、先進類似法人の情報収集など準備手続きを進めてきたところである。この選択は財団職員の生活基盤にもかかわることにもなるので、財団職員が先頭に立ち、そして一人ひとりが責任を分かち合い、将来への展望を的確に見据え、昨年11月下旬に承認申請を行ったところである。今後は内容についてのヒヤリングを通じ目標を成し遂げるといふ揺るぎない姿勢を維持しつつベストを尽くすことに専念することになる。

もう一方の移転の課題については、昨年度に実施した県の耐震診断の結果、現在の建物は用途を廃止せざるを得ないものとなり、平成24年度中の移転を余儀なくされたことである。当センターの本業である発掘

調査を行いながらの移転先の改修や移転計画、部屋の配置、職員との話し合いなど、移転に伴う様々な準備が目白押しであるが、職員が一丸となって取り組まなければ解決できないものである。いずれの課題も財団職員にとっては新たな看板の下での旅立ちで、目標はただ1つ、それに向かって努力するだけでいい。何があろうとも諦めてはいけないのである。

これらの出来事から導き出されることは、仕事があること、働けること、働く場が存在することが当たり前ではない時代が来ている今、働けることの有難さを深く認識するとともに、時は一時も歩みを止めず時代は変わるのだということを強く自覚することである。そして、これを機会に自分たちの新たな組織をどのように維持発展させ、いかに多くの県民の方々から信頼に足る評価を受けるかを常に真剣に考えることが肝要である。

そして財団職員が心掛けるべき姿勢は、仕事する社会人としてどう生きるのか、組織や人との付き合いの中に学ぶべきことがたくさんある。見方、ものの考え方、人としてあるべき姿はそれぞれの環境の中で培うものである。そして人生の価値は自分で見出すほかはない。

### 「埋文やまがた」の購読について

広報誌「埋文やまがた」購読ご希望の方は、当センターまで電話にてお問い合わせ下さい。  
なお、郵送料はご負担いただきます。

電話 023(672)5301(代表)

## 編集後記

「センター参観デー」では多数の御来場をいただきありがとうございます。2月18日(土)にはふるさと考古学講座「昔の火起しを探ろう!」を予定しています。興味のある方は是非申し込みください。